

令和6年 11月22日(金)

あさひの日だまり

NO.25

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～初めての焼き芋大会～

1日中煙に包まれておいしい焼き芋ができました。



児童会長の選挙公約に「野外活動を計画したい」という公約がありました。その公約が実現する時が来ました。それが全校焼き芋大会です。20日(水)がその日でした。子どもたちは「ゆめやま」から薪をはこびました。上級生は太い長い大きな薪をはこんできました。下級生は一人で持てる薪を抱えてはこんできました。前日に大きな薪が上手に組み合わせられて立てられました。まるでキャンプファイヤーのような大きな木組が3つできました。

イモは地域からお借りしている畑で育てました。草むしり、水くれを頑張ってきました。数日前にいもほりをしました。ラグビーボールのような芋から野球ボールのような形をした芋まで色々

な芋が空き教室に置かれ焼き芋の当日を待っていました。

「校長先生、今日焼き芋できるかな?」「雨降らないかな?」水曜日の朝、昇降口に来る子どもたちの多くが、そうつぶやきながら玄関へ入っていきます。みんな今日の焼き芋を楽しみにしてるんだなと思いました。「天気持ちますように」そうお願いをしながら開始の時間を待ちました。

6年生の女の子が来ました。「今日の焼き芋楽しみ?」と聞きました。「楽しみです……」と答えてくれました。その後に何かつぶやいていたので「なに?」と尋ねました。「今までやってきたから」という答えが聞こえました。私はハッとしました。「今までやってきたから」この一言の持つ言葉の重みをしばらくかみしめました。物静かな彼女の中に芽生えているゆるぎない自信を感じました。彼女は会の中で役割を担っているに違いありません。「焼き芋大会があつてよかった」とひしひしと思いました。彼女が閉会式で活躍している姿がありました。立派な姿でした。「すごい!」心の中でそうつぶやきながら拍手を送りました。

水曜日は朝から1日中焼き芋でした。私は1日中火の番を

させてもらいました。暖かい火の周りで落ち葉や薪を動かしているのは本当に楽しい時間でした。子どもたちの焼き芋を一ついただいて食べました。とろける焼き芋でした。家に帰ると体中煙のにおいでした。多分全校児童と職員が同じ匂いで家に帰ったと思います。煙のにおいに包まれて何とも心地よい思いがしました。



～校長講話がありました～

今年最後の挑戦です

校長講話がありました。今回も「挑戦」についてお話をしました。いつもながら私事のお話になってしまい申し訳ないと思いつつもお時間をいただきました。内容はこんなお話です

今日も校長先生の「挑戦」についてお話しします。今日の挑戦はこんなお話です。

今はあまり見かけませんが、校長先生が小さかった頃、家の周りにはたくさんの野良猫がいました。先生の家は田舎なのでどの家も生ごみは畑に捨てていました。野良猫はそれを餌にして暮らしていたのです。学校帰りには何匹か

の猫が塀の上で日向ぼっこをしたり田んぼの土手を悠々と歩いたりしているのによく出会いました。それが自然な風景でした。

先生の家は農家でしたので、稲わらが2階の納屋に積んでありました。ある日知らないうちに親猫がそこで子どもを産んで育てていました。突然納屋の中からたくさんの子猫が転がりながら出てきてびっくりしました。野良猫が家に住み着くと困るので、野良猫を見かけると大声で追い払ったり石を投げつけて追い払いました。だからどの野良猫も人の姿を見るとすごい勢いで逃げていきました。そして隠れて畑に近づいて餌を食べて命をつないでいたのです。だいたい野良猫は小さいうちにキツネや鳶の餌になっていたのだらうと思います。だから野良猫の数が増えすぎることはありませんでした。

この頃は家の周りに野良猫はいません。どの家でも猫を途中で捨てないでちゃんと育てているからです。

ところが1ヶ月ほど前の話です。奥さんが、裏の畑の生ごみを一生懸命にあさっている一匹の猫を見つけました。奥さんはすぐにどこかへ行くと考えていました。

その夜校長先生が家に帰ると一匹の猫が暗がりから勢いよく駆け寄ってきました。びっくりしました。黒い猫は足にすり寄ってはなれません。校長先生はこけそうになりました。一緒に家に入ろうとして離れてくれません。校長先生は可哀そうにと思いながら頑張って引き離して家に入りました。その話を奥さんにすると「きっと昼間見た猫だと思う」と言いました。どこかの飼い猫が遊びに来たのねと言いました。もう夜だから飼われている家に帰るねと二人で話しました。

次の朝のことです。学校へ行こうとして玄関を出たらその猫がまた走ってきたのです。足にすりすりして離れません。家に帰らなかったんだとびっくりしました。それでも校長先生は帰ってくるまでにはいなくなるだらうと思ってそのまま車で出かけました。家に帰る頃には猫のことも忘れていました。

ところがです。真っ暗な玄関の前に黒い影が見えます。黒い猫がちょこんと校長先生の帰りを待っていたんです。かわいい声で「ニャー」と一声鳴きました。

次の日も次の日も猫は出かけてそして帰って来る校長先生の周りをニャーと鳴いてついてきました。外には冷たい風が吹いています。いったいどこで寝ているのでしょうか。凍え死なずに毎晩どこかで夜を過ごし、朝になると家のベランダに顔を出すのです。ついに見かねた奥さんが餌をあげました。腹ペコの猫はわき目も降らず音を立てて必死に餌を食べました。その後姿を見ていたら、かわいくてかわいくて、校長先生は思わず抱き上げてしまいました。私の手の中で安心した顔でゴロゴロと鳴きました。家に連れて入ると、布団に潜り込んで足のところで寝てしまいました。

その日から奥さんと校長先生は猫の飼い主を探しました。近所を聞いて歩きました。知っている人はいませんでした。どうやら誰かが家の近くに捨ててしまったに違いありません。

奥さんが虎柄の模様があるので「虎」と名前を付けました。

ここで大変困ったことが起きました。わが家には「スー」という猫がいます。これが「スー」です。

「スー」はなかなか人になつきません。抱き上げると嫌がってかみついたりします。とても臆病で怖がりな威張りんぼな猫なんです。

「虎」の登場を「スー」は許しませんでした。初めての出会いの時「虎」は「ニャー」とかわいい声を出して「仲良くしてね」と自分から近づいて行ったのです。なんて立派な猫なんだと校長先生は感心しました。ところがです「スー」はしっぽをまん丸に膨らませて唸り声を上げて耳を後ろに倒してとびかかる姿勢をとったのです。それでも「虎」はじっとしていました。優しい目をして「スー」を見つめて「ニャー」と鳴きました。

今も「スー」は「虎」が家に入ることを決して許しません。仕方がないので「虎」は外で暮らしています。校長先生は「虎」のことが心配でなりません。この頃後ろ足を引きずるようになりました。どこかでケガをしたに違いありません。

もうすぐ雪が降ります。どうしたらよいか困っています。「虎」のために小屋を建てようと思っています。

校長先生の新しい挑戦は「虎」の小屋を作って「虎」が安心して冬を越せるようにすることです。そして、「虎」と「スー」を仲良しにすることです。校長先生は頑張ってみます。

これで校長講話は終わりです。